

伊藤 太一 先生

東京歯科大学
口腔インプラント学講座
准教授
東京歯科大学卒
日本口腔インプラント学会専門医・指導医
日本歯周病学会専門医・指導医

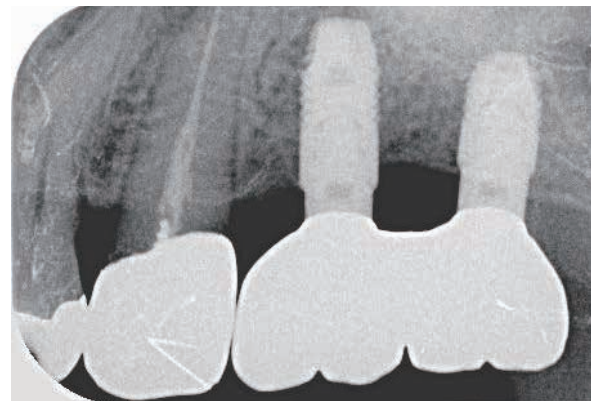


澁谷 真紀 先生

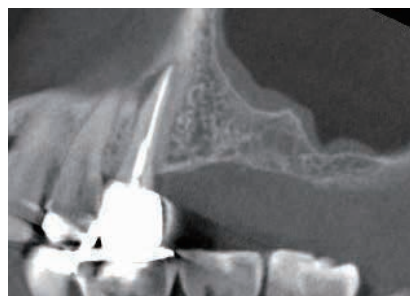
東京歯科大学
口腔インプラント学講座
レジデント
東京歯科大学卒

上顎臼歯欠損歯部にショートインプラントとユニアバットメントを用いたスクリー固定式上部構造症例

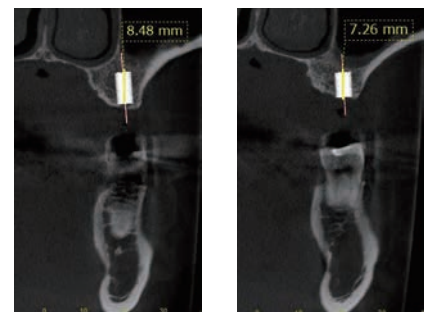
ショートインプラントの開発により、これまで骨造成手術を行わなくてはインプラント治療ができなかった萎縮した顎堤の症例に対し、簡便かつ低侵襲なインプラント埋入手術が可能となった。ショートインプラントは当初、機械加工表面インプラントの上顎臼歯部(柔らかい骨質)の低い生存率が問題となっていた。しかし、表面性状がラフサーフェスとなった最近のインプラントにおいて、長いインプラントで得られる生存率と同程度の結果が報告されるようになってきた。デンツプライシロナではアストラテックインプラントシステムのなかで、垂直的に限られた骨高径に応用できる非常に短いインプラント、osseospeed EVΦ3.6, 4.2, 4.8, 5.4×6mmがラインナップされている。6mmのアストラテックインプラントの高い生存率は数多くの研究で報告されている。また、アストラテックインプラントの表面性状(OsseoSpeed®)は辺縁骨レベルが長期的に維持されることも示されている。本症例では、上顎左側臼歯欠損歯部の萎縮顎堤にショートインプラントを埋入、ユニアバットメントEVを用いたスクリー固定式上部構造を装着した1例を提示する。



1. 症例は49歳男性。上顎左側大白歯欠損による咀嚼障害を主訴に来院。約1年前に26、27歯は歯根破折により抜歯となった。



2. 初診時X線写真。26欠損歯部から遠心部になるにつれて骨高径は少なくなっている。



3. 術前CT画像。埋入予定部位である26部、27部の骨幅、骨高径を計測、インプラント埋入のシミュレーションを行った。

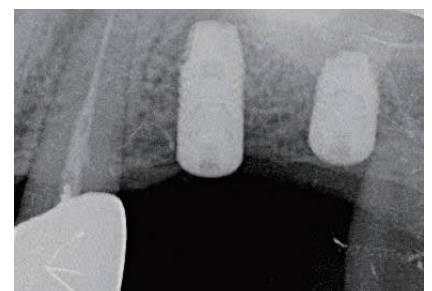
ショートインプラント 8mm, 6mm implant length option



4. アストラテックインプラントシステムEVには、様々な臨床ケースに対応できるようにインプラントがラインナップされている。垂直的骨頂に制限のあるケースにおいて、ショートインプラントは効果的である。



5. 26部にOsseoSpeed EV 4.2S×8mm、27部にOsseoSpeed EV 4.2S×6mmのショートインプラントを埋入した。

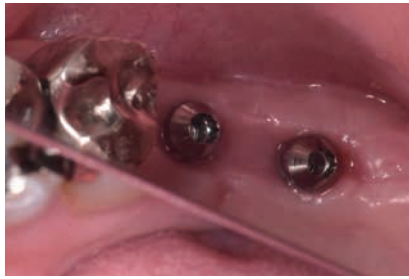


6. 埋入手術後X線写真。いずれのインプラントも骨造成を必要とせず、上顎歯槽骨内に埋入されている。

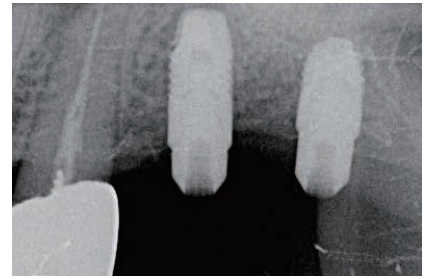
ユニアバットメントEV



7. ユニアバットメントEVはすべてのインプラント接合部に対応(3.0-5.4)。ユニアバットメントEV装着には専用のユニドライバEVが必要となる。



8. 26部、27部にユニアバットメントEVを装着した。



9. ユニアバットメントEVを規定トルク値25Nで締結した。X線写真で確認したところ、アバットメントは問題なく装着されている。



10. アバットメントレベルで印象用コーピングを装着し、印象精度を高めるためにコーピング同士をパターンレジンで連結を行った。



11. オープントレー法によるインプラント印象採得を行った。



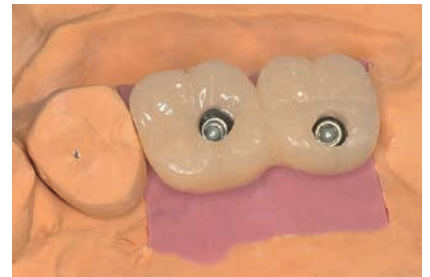
12. アバットメントレベルによる印象採得印象用コーピングは正確にピックアップされている。



13. ユニアバットメントEVレプリカを使用し、上部構造作製のための模型を作製した。



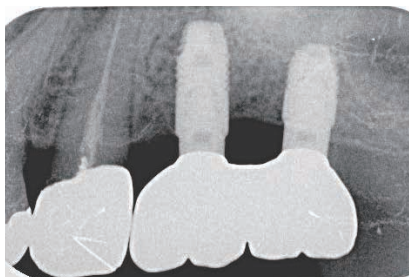
14. プロビジョナルレストレーション装着咬合状態や形態などのチェックを行う。



15. 最終上部構造
プロビジョナルレストレーションを参考にフルジルコニアによる最終上部構造を作製した。



16. 最終上部構造装着
フルジルコニアによるスクリュー固定式上部構造を装着した。



17. 最終上部構造装着X線写真
ユニアバットメントEVと上部構造の適合は問題なくフィットしている。